

# Kami Kami

～紙プロ通信～



2008.10.20 発行 / number 1

発行元：東洋大学 社会学部

社会文化システム学科

編集責任：小林正夫

〒112-8606

東京都文京区白山 5-28-20

TEL 03-3945-7439 FAX 03-3945-7626

## はじめまして、紙プロです —文京から世界へ—

皆さんは東洋大学の白山キャンパスが位置する文京区に特徴的な産業をご存じでしょうか？——それは出版や印刷、製本を中心とした紙産業です。これらの産業は紙を知的メディアに変えるものであり、区内に多くの大学を擁していることと相まって、この区を「文教」という語で形容させるほどに活発なものとなっています。また、「紙」は製造・加工・消費・再生のあらゆる段階で深く環境問題と関わっています。環境問題・循環型社会といった事を考えるとき、「紙」の話題を避けて通ることは出来ません。

### 【紙プロとは】

東洋大学社会学部社会文化システム学科では、この「紙」を通じて「地域」や「環境」との東洋大学のあり方を考え、学生主体で活動するプロジェクト「紙の総合学習を通じた地域間連携—文京区を基点とする実践的臨地教育を目指して」（通称：紙プロ）を平成19年度に発足させました。このプロジェクトでは学生が自ら問いを考え、調査を行い、収集した資料を分析・検討し、その成果を発表するまでを実践的に学んでいきます。その過程で東洋大学と地域の人々との連携を築き、紙産業・紙文化を通じた地域振興や、紙をめぐる環境問題の市民レベルでの解決に向けた活動計画を創案・実施することを目指しています。

### 【フィールドワーク】

この目的を実現させるために、私達はフィールドワークに主眼を置いた調査活動を行っています。フィールドワークとは、ある調査対象に関して、それに即した調査対象地を訪れ、観察・聞き取りなどによって資料を得ることです。紙プロの場合、対象は「紙」に関わる人々、対象地区は文京区とその周辺区部となります。実際に人から見聞きして「知りたいことを体験する」ことは、プロジェクトを続けていくうえでの大きな醍醐味と言えるでしょう。

### 【地域へ向けて】

この次の段階として、成果の発表、つまりは地域社会の発展や環境問題といった事に対して提案を行い

ます。

そのために現在計画しているのが大学祭での出展とシンポジウムの開催です。これまで私達がフィールドワークにおいて積み重ねてきたものを一般の方にもわかりやすく、興味を持っていただけるような形で展開したいと思っています。これらの活動を通じて紙に関する産業や行政の担当者、そして教員や大学生が「紙」と「地域」と「環境」の諸問題を一緒になって考え、地域連携へと繋がる場を提供することが私達の最終的な目標です。

### 【調査内容】

私達は現在「地域誌班」と「地域環境班」とに分かれ、「地域」と「環境」の二つの側面から課題にアプローチしています。今年度は主に以下の項目で調査を進めています。

#### ◆「地域誌班」

- ・文京区における印刷業や製本業を支えてきた人々のライフヒストリー調査
- ・紙に関わる地域経済構造、教育事業・出版業と地域振興の関連

#### ◆「環境班」

- ・紙の生産から再生までの過程
- ・紙に関わる時事問題について調査・研究
- ・紙にまつわる諸データの収集

# — 第1回シンポジウム

紙プロ発足1年目の2007年12月8日、白山キャンパス6号館6211教室で社会文化システム学科主催「紙と地域と環境を考える—文京区を基点とする臨地教育の試み」という題で1回目のシンポジウムが開催された。

主に夏休み中に行った文京区周辺でのフィールドワークから、地域誌班は文京区の地場産業である印刷業について、地域環境班は古紙リサイクルについて調査をし、初年度の成果を発表した。メンバーが自主的にアポイントメントを取り、何を明らかにすべきか現場に出て考え、発表に至るまで苦労はしたものの、シンポジウムを成功させることができた。

シンポジウムではメンバーの発表のほかに、印刷業、リサイクルに関して、東京都資源回収事業協同組合、東京都印刷工業組合文京支部、文京区役所資源環境部リサイクル清掃課、区民部経済課の皆様、また、京都大学の山田勇先生、名古屋市立大学の赤嶺淳先生はじめ多くの皆さんの御協力を得て、大変意義のあるシンポジウムだったと言えるだろう。

今回は学生を代表して「牛乳パック・リサイクル再考—現場から見た「環境問題」」という題で発表をした、地域環境班の小瀬澤杏さん(4年)にシンポジウムの報告をしてもらった。

私達は「紙」をテーマに、リサイクルの点から環境問題の現状と課題を見出していこうと考えた。

研究を進めていく上で特に重要視したことは「フィールドワーク」の実施である。私自身、牛乳パックのリサイクル

## 紙と地域と環境を考える—文京区

2007年12月8日(土) 東



工場でフィールドワークを行った際に、暑さと戦う現場の方々の長時間労働の苦悩、周辺住民とトラブルになっている異臭などを目の当たりにした。私達は現場の生々しさを体験することで、インターネットや文献の情報だけでは、百パーセントまで達していないことに気付かされたのだ。

シンポジウムでは、研究成果を難しい言葉や専門用語を使って発表するのではなく、自分達の感じたことを素直に伝えたことで、「リサイクルって意味がないと思っていたけど、小さな努力も環境問題対策に繋がっているんだね。これからは、牛乳パックのリサイクルに協力するね。」といった言葉を頂くことができた。

シンポジウムの開催が、私達だけでなく業者の方々にとっても、「紙」を考える新たな「きっかけ」となってくれたことだろう。

このシンポジウムを通じて、「紙」から大学がある文京区について各々が考え、さらに他の地域にも繋がる問題を見出せたという自信が、今年度の活動に勢いをつけている。まずは第一歩を確実に踏み出せたと言えるだろう。

### 2008 年度活動予定

|                  |                  |
|------------------|------------------|
| 5月24日(土)         | 第1回合同勉強会         |
| 7月3日(木)          | 赤嶺教授講演会(2年生合同ゼミ) |
| 7月13日(日)         | 第2回合同勉強会         |
| 10月12,13日(日、祝)   | 勉強合宿             |
| 11月1,2,3日(土、日、祝) | 白山祭に出展           |
| 12月6日(土)         | 第2回シンポジウム        |
| 12月~1月           | マレーシア調査          |
| 2月               | 20年度報告書作成・発行(予定) |

### Message from KamiPro!

#### 白山祭 紙プロ出展決定!

来る11月1~3日、白山キャンパスで第44回白山祭が開催されます。そこで私達、紙プロも展示ブースを設けることになりました。

主な企画は、手作り裏紙ノートの販売、白山キャンパス周辺の印刷会社マップ、古紙回収の現場を追った活動ビデオの上映、世界のトイレトペーパーのコレクションの展示など、楽しい企画が盛りだくさんです。さらに、最終日には活版印刷体験ツアーも企画しています!ふるってご参加下さい!

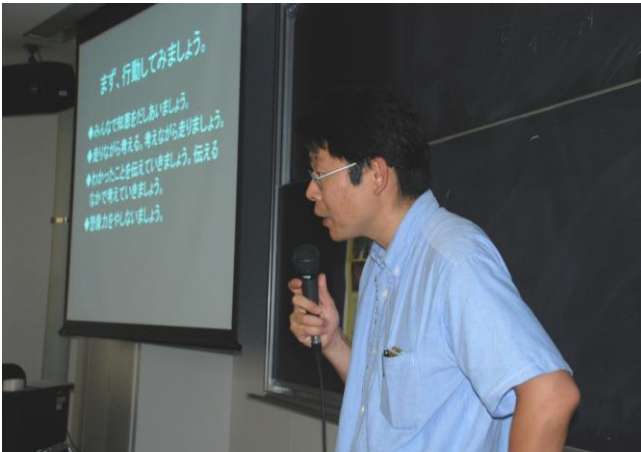
場所:白山キャンパス 1号館 1302教室

日時:11月1,2,3日 10~17時(予定)

# 「まず始めよう」——直感→実践のススメ

## 紙プロ公開講演会

## 紙プロ公開講演会



7月3日、東洋大学白山キャンパス 6号館 6202教室において、紙プロ主催の講演会が開かれ、紙プロメンバーだけではなく、他学部からの参加や社会文化システム学科2年生の合同ゼミも兼ねていたため、約200名の学生が熱心に耳を傾けた。今回お招きしたのは、名古屋市立大学の赤嶺淳准教授。同大学での文部科学省による現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム「バナナペーパーを利用した環境教育(バナナプロジェクト)」の活動に基づきながら、「バナナペーパーからフェアトレードへ」の活動内容と成果に関する講演をお願いした。

「まずどんなことでも始めよう」の言葉をきっかけに名古屋市立大の学生による積極的な活動内容の紹介から、私たち東洋大生に向けて「熱く生きる」ことの意義を大きなメッセージとして投げかけてくださった。

「バナナプロジェクト」とはバナナの偽茎(産業廃棄物として扱われる部分)を利用し、無農薬で白紙を作る活動に着目して2006年に立ち上がった団体であり、創設2年ながら、スリランカでのフィールドワークを成功させた。のちにこの実習がターニングポイントとなり、学生同士が意見を出し合う中で、問題点を見つめ直してきた。バナナプロジェクトはバナナペーパーを作る技術的な協力から始まったが、「もっと踏み込んでできる協力はないのか」と悩んだ末に、モノを通して社会を見るという目的に至ったようだ。自分達にできることは技術の伝達よりも、フィールドワークからそのモノを理解すること。そこからフェアトレードへの注目が高まり、新たな試みがスタートしたと言う。

現在は、データ収集や、同大学のフェアトレードサークルと協力してイベントを企画したり、他大学との交流を重ね、フェアトレードへの理解を深めている。その中で、学生達の意識が高まり、行動することの楽しさ、自分達にもできるという揺るぎない自信、さらにはそこから自己形成の実現へも繋ると赤嶺先生はおっしゃっていた。

大切なことは「まず始めよう」という気持ち。今回の講演では、赤嶺先生から名古屋市立大のプロジェクトを例に、私たち学生が世界に出て、アクションを起こし、社会に発信できることを示してくださったように思う。

7月13日、紙プロジェクトでは早稲田大学より「ボルネオプロジェクト」、本校の公認サークルである「アカシアの木」の方々をお招きして、合同ミーティングを行った。これはさまざまな分野で活躍する学生団体の報告から、私達が紙プロに対する意識を高めていくという目的で行われた。それぞれ「ボルネオ島におけるボランティア活動」「身近なところから考える環境問題」といったことを主に報告していただいた。今日、世界は多くの問題を擁している。それは戦争、貧困、飢餓、環境問題などを含み、いずれの問題も世界規模の広がりを持っている。これらはたとえ日本に住んでいようとも避けて通ることの出来ないものである。これらの事柄に対して自らが主体となって行動を起こしていく団体との交流は大変有意義なものであった。限られた時間での報告であったが、彼らの活動理念や信念といったものがひしと伝わってきた。「もっとも印象深かったのは、彼らが自分達の活動を伝えるときの、その目の輝きと信念の固さ。経験に根ざしたボルネオプロジェクトのメンバーの言葉の一つ一つがとても心に残った」(紙プロ:浅沼氏談)。私たちはこの交流を通じて、物事に真剣に向き合うことの大切さや実際の行動を起こすことの重要性を学んだように思う。

### ※各団体の紹介

#### 【ボルネオプロジェクト】

ボルネオプロジェクトとは早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター内に組織されたプロジェクトの一つ。「海外ボランティアリーダー養成プロジェクト in ボルネオ」が正式名称である。目指すのは「お互いに“しあわせ”を感じる考える場を創ること」である。現在の活動内容は「ボルネオ島のマレーシア領にけるフィリピン人移民への支援」「ボルネオ島奥地のマンタナラウ村での交流」「日本やマレーシアでの広報活動」の三つである。

#### 【アカシアの木】

アカシアの木は東洋大学の公認サークルで、戦争・環境破壊・貧困・飢餓などの地球規模の問題をテーマに活動している。これらの問題に対して身近なところから解決の糸口を模索していくことを目指しているようだ。現在は主として環境問題を扱っており、学内で独自のリサイクル活動を展開している。「知って、感じて、まず一歩」をスローガンに掲げている。

彼らの活動の主なものとして、学園祭におけるリユースカップ&エコエリアの導入、エコキャップ運動などが挙げられた。その他にも活動の幅は学内に収まらず、「ネイチャーフィスティバル」や「環境サミット」などにも参加している。

この2団体に興味を持っていただけた方は下記のURLからHPへどうぞ

●ボルネオプロジェクト ホームページ

<http://borneo-project.hp.infoseek.co.jp/index.htm>

●アカシアの木 ホームページ

[http://www.geocities.jp/tree\\_of\\_akashia/](http://www.geocities.jp/tree_of_akashia/)

また、この勉強会の詳細は近日中に私達のHPにも掲載する予定なので合わせてご覧ください

●紙プロ学生ホームページ

<http://kamiproject.jugem.jp>



## What are you doing now, KamiPro?

～活版印刷～

地域誌班！

活版印刷——今ではあまり聞き慣れない言葉ですが、ほんの 30 年前までは文字の印刷といえば活版を使ったものが主流で、印刷文化を大きく支えてきたものといえるでしょう。

活版印刷の技法はハンコとよく似ていて、とてもシンプルな原理からできています。ばらばらになっている活字を必要な分だけ棚から一つずつ取り、行間や罫線などを組み上げる際のルールに則りトレイに並べます。そして試し刷り、校正を経て印刷をするという一人では完成しえない、とても手間がかかる作業なのです。

今は都内でも活版を使って印刷をする会社はほとんど無く、何年か後には活版印刷は姿を消すと言われていています。

### 【 Fieldwork in 活版工房 】

文京区のトッパン内に設けられた印刷博物館印刷工房「印刷の家」。ここでは活版印刷に長い間従事してきた職人さんが、私達にその技術を直々に指導して下さいます。活版印刷に興味を持っていた私達は、職人さんから活版印刷について、また当時の想いなど貴重なお話を伺うことができました。

お話を伺ったのは昭和 19 年生まれの T さんと昭和 20 年生まれの I さん。お二人は活字職人を経て、印刷業界の大きな技術革新であるデジタル化も経験されてきました。

T さんは高校卒業後、印刷会社に入社し、突然、上司から活版印刷への配属を言い渡されました。「何年か後にはコンピューターが世の中に入ってきて、活版印刷はどうなるのかな」という漠然とした不安を抱えて仕事をしていたといいます。

I さんは入社当時を、「活版部門は職人の世界で、ちょっと違っていたな」と振り返ります。活版印刷は、経験を積みば積んだだけ身につく職人技であるため、職場の年齢層は高く、先輩の技を盗みながら腕を磨きました。

約 30 年間活版印刷に携わり、ベテランの職人として大忙しだったお二人に、突然のデジタル化の話が届きます。真新しいプログラムを頭に叩き込み、たった 1 ヶ月間で習得しなければなりません。「体力的には楽になったが、今でもアナログの方が……」と生き生きと話す様子から、活版印刷に特別な思いを寄せているのが伝わります。職人としての誇りを感じ取ることが出来ました。

定年退職後の現在も、お二人は印刷工房「印刷の家」で、講師として活躍されています。お二人は、長年培ってきた活版印刷術だけでなく、活字の美しさや素晴らしきまでも文化として次世代に伝承する、重要な立役者であると言えるでしょう。

### 編集メンバー紹介

紙プロジェクト広報班が編集・制作しています。

●小倉昇：社会文化システム 1 年 環境班

広報班リーダー

今年の学祭&シンポ是非来て下さい！

●高橋良江：社会文化システム 3 年 地域誌班

リーダー

Perfume の武道館ライブに行ってきます♪

●林貴之：社会 2 部 2 年 環境班

Kami kami どうでしたか？楽しんでいただけたら幸いです。

●竹尾泉：社会文化システム 3 年 環境班

スペイン語頑張りまーす

●高倉和奈：社会 2 部 2 年 地域誌班

紙プロブログやっています！ぜひ来て下さい♪

●福島匠：印度哲 1 年 地域誌班

これからも、付き合っていたけると嬉しいです。

### 活版印刷体験ツアー！

昔ながらの印刷技法を体験してみませんか？



白山祭会場から印刷博物館内にある活版工房

「印刷の家」へ無料送迎のご案内！ あなたも活版印刷を体験してみては？

日 時：11月3日午後 ※時間は決まり次第紙プロ HP に UP します

場 所：印刷博物館（文京区水道 1-3-3 トッパン小石川ビル）

所要時間：1 時間半～2 時間

内 容：活版を使った印刷を体験（御用意いただくものではありません）

※印刷博物館のご厚意で参加費は一切かかりません。

印刷博物館ホームページ <http://www.printing-museum.org/index.html>

紙プロ学生ホームページ <http://kamiproject.jugem.jp/>